

【学生による ESD 学習支援活動】
奈良市立富雄第三小学校 野外活動支援 報告書

社会科教育専修 学部 1 回生 岡本真実

1. 実施日 令和元年 7 月 4 日（木）17：00～21：30
2. 場所 奈良市青少年野外活動センター
3. 参加者 中西悠策（大学院生）
仲村幸奈、足立繁郁、林祐希、岡本真実、山口竜輝、吉田柚季（学部生）
奈良市立富雄第三小学校第 5 学年児童、引率教員 複数名

4. 活動内容

令和元年 7 月 4 日（木）、奈良市青少年野外活動センターにおいて奈良市立富雄第三小学校第 5 学年の野外活動が行われ、本学学生 7 人がこの支援にあたった。1 泊 2 日の活動のうち 1 日目の内容に関わり、薪組やトーチ準備などのキャンプファイヤーの準備、キャンプファイヤー中の児童の指導、日暮しの集いでの歌指導、学生主導のスタンプを行った。

今回の野外活動支援について以下の 2 点で振り返る。第 1 に準備することの大切さ、第 2 に子どもたちと関わることの難しさである。

第 1 に準備することの大切さである。今回の野外活動支援では初めて参加する学生が多かったのだが、時間の都合により事前指導はなく、前日の打ち合わせだけで支援に臨むこととなった。そのため薪組の時間に最終打ち合わせが行われ、予定全体を把握できないままキャンプファイヤーを迎えてしまい、自分から行動することができない部分や不安なまま子どもたちと関わってしまう部分があった。次の活動では、予定確認などを含め事前準備により時間をかけた状態で当日に臨みたい。また、野外活動で使われる歌やスタンプについても覚えていきたい。

第 2 に、子どもたちと関わることの難しさである。この野外活動では、奈良教育大学ユネスコクラブの一員として行かせていただいたが、「先生」などと呼びかけてくる子どもたちをの様に、子どもにとって私たちは教員の一人なのだと気づかされた。そのため、子どもたちの安全を守るために注意するといった声掛けも重要になってくる。また、子どもたちと会話するとき仲の良い友達のような話し方をしないことも重要である。特に会話することが苦手な子や活発な子のような子どもたちの特性に合わせて話しかけることを心掛けるべきだろうと学んだ。以上の点に気を付けて行わないと子どもとの関わりの中で問題が起こってくると感じた。

以上の 2 点がこの野外活動で学んだことである。今回の野外活動では、予定の確認といった初歩的なことやスタンプや歌を知らないといった自分に足りないと思うことなどのたくさんの課題点が出た。このような課題点をほかの支援活動などで活かし、自分の経験や知識を増やしていきたい。また、教員を目指すものとしての自覚を持ち、子どもたちとかかわっていくことを意識していきたい。



キャンプファイヤーの様子